

平成30年度岩手県消防協会実施事業報告

東日本大震災から8年余りが経過し、その後も平成28年4月の熊本地震、本県に大きな被害をもたらした8月の台風第10号による大雨災害、平成29年5月の釜石市の林野火災、そして平成30年9月の北海道胆振東部地震などの大規模災害を経験し、さらに近い将来、大規模な地震が懸念されることなどから、地域防災力の重要性が増大している。

こうした中、平成30年度の実施事業については、平成30年度岩手県消防協会事業計画に基づき、県内の消防本部、消防団並びに市町村と十分な協力、連携のもとに、計画された各事業は全て実施した。

大規模災害の北海道胆振東部地震に際し、消防団の活動を支援するため、北海道消防協会に支援金を交付した。

地域防災力の充実強化等を図るため、7月29日には岩手県消防学校において岩手県消防操法競技会を開催した。また、防火防災思想の普及啓発事業としてチラシ「防火の知識」を作成配布するとともに、機関紙「消防岩手」を年6回発行し、県内の消防職・団員の教養資料や消防関係情報等の伝達に資した。

さらに、岩手県婦人消防連絡協議会及び岩手県幼少年婦人防火委員会に助成等を行い、婦人消防協力隊・婦人防火クラブ及び幼少年消防クラブ等と一体的に防火思想の普及啓発活動に努めたほか、岩手県防災保安協会と連携を図り、住宅用火災警報器の維持管理等の広報に努めた。

消防功労者の顕彰として、消防職・団員の連携の強化と士気の高揚を図るため、消防定例表彰を実施するとともに、消防殉職者及び消防協力者の御霊の安んずることを念じるとともに、遺徳を偲ぶため、岩手県消防殉職者慰霊祭を実施した。

消防団員の減少で地域防災力の低下が懸念されることから、消防団員の確保を図るため、消防団員募集や消防団活動等のPR活動を岩手県消防学校の「消防体験まつり」やラジオ広報等を活用して広く住民に実施するとともに、消防団員の育成強化を図るため、消防団長等幹部研修会を実施した。

また、公益目的事業の補完的な役割となる収益事業として、消防団員等の福利厚生を図るため、消防団員等福祉共済事業、婦人消防隊員福祉共済事業、消防団員火災共済事業、消防個人年金事業等の事務を行った。

○ 公益目的事業1

I 防火防災思想の普及啓発事業

1 防火思想普及事業

(1) チラシ「防火の知識」の作成配布

県民の防災思想普及の啓蒙を図るため、「秋季全国火災予防運動」に

併せ、平成30年版チラシ「防火の知識」を作成し、市町村並びに関係団体等に配布した。〈18,000部〉

(2) 機関紙「消防岩手」の発行

日本消防協会の補助を受け、機関紙「消防岩手」を年6回発行し、消防職・団員の教養資料及び情報の伝達に資した。〈3,550部〉

(3) 機関誌「日本消防」の配布

日本消防協会の機関誌「日本消防」を消防団長等の教養資料等に資するために配布した。〈175部〉

(4) 住宅用火災警報器の維持管理等の広報

住宅用火災警報器の設置義務化から10年以上が経過し、交換等の維持管理が重要になることから、岩手県婦人消防連絡協議会、岩手県防災保安協会等と連携を図り広報活動を実施するとともに、IBCラジオを活用し、「春季全国火災予防」期間中にラジオCMをスポット放送して住宅用火災警報器の維持管理等のラジオ広報を行った。

(5) 岩手県婦人消防連絡協議会による防火思想普及活動助成

県内の婦人消防協力隊及び婦人防火クラブ員による防火思想の普及啓発を図るとともに、組織拡大と育成強化を図るために活動助成金として30万円を交付した。

ア 隊長・会長研修会

〈平成30年4月14日(日)、15日(月) 雫石町・ホテル森の風鶯宿〉

婦人消防協力隊長、婦人防火クラブ会長等の資質の向上を図ることを目的として開催する研修会に協力した。

イ 婦人消防等指導者研修会(共催事業)

〈平成31年2月3日(日)、4日(月) 花巻市・ホテル千秋閣〉

自主防災組織の中核をなす婦人消防等の民間防火組織の拡充強化及びその資質向上を図ることを目的として、当協会と岩手県婦人消防連絡協議会、岩手県幼少年婦人防火委員会の主催及び日本防火・防災協会の共催により「平成30年度婦人消防等指導者研修会」を開催した。

(6) 岩手県幼少年婦人防火委員会による防火思想普及活動助成

県内の幼少年消防クラブ及び婦人消防協力隊・婦人防火クラブによる防火思想の普及啓発を図るとともに、組織の拡大と育成強化を図るために活動助成金として20万円を交付した。

ア 定例表彰

9月1日の防災の日に表彰基準に基づき火災予防意識の高揚及び啓発に多大な貢献をされ、他の模範となる優良幼年消防クラブ2団体、優良少年消防クラブ2団体及び優良婦人消防協力隊・婦人防火

クラブ2団体並びに優良幼少年クラブ指導者3名を表彰した。

イ 火災予防広報事業

幼年・少年消防クラブ員の活動に資するため、火災予防啓蒙用品を各地区の幼少年防火委員会あてに配布した。

(7) 岩手県婦人消防連絡協議会の事務協力

県内の婦人消防協力隊・婦人防火クラブの組織の充実強化を図るとともに、相互の連帯協調のもとに全県的な火災予防活動を進めることにより、安全で住みよい郷土づくりに貢献することを目的に結成されている岩手県婦人消防連絡協議会の事務局として事務全般にわたり協力した。

(8) 岩手県幼少年婦人防火委員会の事務協力

県内の幼少年消防クラブ及び婦人防火クラブの育成強化を図り、火災予防思想の普及向上に努めるとともに、本県の火災予防の推進に寄与することを目的に結成されている岩手県幼少年婦人防火委員会の事務局として事務全般にわたり協力した。

(平成30年4月1日現在 幼年消防クラブ285団体17,598人、少年消防クラブ139団体6,530人、婦人消防協力隊(婦人防火クラブ)46団体74,436人)

(9) 岩手県消友会の事務協力

退職消防長、消防団長及び婦人消防協力隊長・婦人防火クラブ会長が、消防人であったことを誇りに持って、会員相互の親睦等を図るとともに、岩手の消防発展に寄与することを目的に結成されている岩手県消友会の事務局として事務全般にわたり協力した。

2 岩手県消防殉職者慰霊祭

(1) 岩手県消防殉職者慰霊祭

〈平成30年9月6日(木) エスポワールいわて・盛岡城跡公園義魂碑〉

消防殉職者及び消防協力者の178柱の御霊のご冥福を祈り、その功績をたたえ、遺徳を偲ぶとともに、先人の犠牲をむだにすることなく、防火防災に関する知識の向上に努め、安全な消防活動等による地域防災力の向上を誓う事業として、ご遺族、知事、市長会会長、町村会会長等の来賓及び当協会役員、関係者が参列して挙行了した。

(2) 岩手県消防殉職者遺族会の事務協力

県内において、消防職・団員として勤務し、殉職した者及び消防協力者のご遺族を会員とする岩手県消防殉職者遺族会の事務局として事務協力した。

II 消防功労者の顕彰

1 平成30年度岩手県消防協会定例表彰式

〈平成31年3月14日(木) 岩手県民会館〉

消防職・団員が長年の消防防災活動に従事した功績、消防協力団体並びに一般の方々が火災等の災害発生時に消火や人命救助等に協力した功績を顕彰し、災害対応等への消防活動に対する住民の理解醸成及び防火防災意識の向上、消防職・団員の連携の強化と士気の高揚を図り、安全な県土を構築する事業として、岩手県と共催により平成30年度岩手県消防表彰式を行った。

(1) 岩手県消防協会会長表彰

ア 竿頭綬「無火災功労」 6団 盛岡市消防団、八幡平市消防団、紫波町消防団、矢巾町消防団、西和賀町消防団、大槌町消防団

イ 「功労章」 85名

ウ 「功績章」 168名

エ 「表彰状」 ・岩手県消防協会役員功労賞 5名
・婦人消防協力隊員・婦人防火クラブ員表彰 44名
・消防団事務担当功労賞 2名

(2) 岩手県消防協会会長感謝状

ア 一般協力団体 1団体 有限会社福士鋳業所(大槌町)

イ 内助功労賞 98名

2 第60回岩手県民の警察官・消防職団員表彰式

〈平成30年9月18日(火) 盛岡劇場〉

産経新聞及び岩手めんこいテレビ主催による岩手県民の警察官・消防職団員表彰に、釜石市消防団 野田 光利 分団長が受章の栄に浴され、表彰状及び記章等が授与された。

Ⅲ 消防団員の確保及び育成強化事業

1 消防団員確保事業

社会経済の変化や少子高齢化等に伴い、消防団員数の減少で地域防災力の低下が懸念されていることから、消防団員の確保を図り安心・安全なまちづくりに寄与する事業として、消防団員募集や消防団活動等についてのPR活動を行った。

(1) 消防体験まつり等

〈平成30年9月15日(土) 岩手県消防学校〉

岩手県消防学校が行う「消防体験まつり」、当協会が行う岩手県消防操法競技会の開催に併せてPR活動を行った。

(2) ラジオ広報等

〈平成31年2月9日(土)～28日(木)〉

I B C ラジオを活用し、ラジオCMのスポット放送の実施とクリアファイルを作製して消防団員募集等のPR活動を行った。

2 災害支援事業

平成30年9月の北海道胆振東部地震により長時間にわたり災害活動を行った消防団の支援のため、北海道消防協会に50万円の支援金を交付した。

3 消防操法競技会事業

(1) 第41回岩手県消防操法競技会

〈平成30年7月29日(日) 岩手県消防学校〉

消防団員のポンプ操法技量の基礎を培い、競技による操作の三原則である安全、確実、迅速の徹底と士気の高揚を図ることを目的として岩手県の後援により開催した。

また、各地区支部に出場助成金を交付した。

ア ポンプ車の部 14チーム

イ 小型ポンプの部 14チーム

(2) 第26回全国消防操法大会

〈平成30年10月19日(金) 富山市・富山県広域消防防災センター〉

第41回岩手県消防操法競技会「小型ポンプの部」で優勝し、日本消防協会が消防技術向上と士気の高揚を図り、もって地域における消防活動の充実に寄与することを目的に開催する全国消防操法大会に出場する北上市消防団に訓練及び出場助成金を交付した。

4 消防団員の育成強化

(1) 平成30年度消防団長等幹部研修会

〈平成31年1月16日(水)・17日(木) 花巻市・ホテル千秋閣〉

消防団組織の育成強化、消防団の幹部職員としての資質の向上を図ることを目的として「県における防災消防の取組について」と題して岩手県総合防災室長からの講話、「第26回全国消防操法大会出場報告」と題して北上市消防団長、新時代に対応した消防団運営方策の普及講座の「消防団の現状とあらたな動き」と題して東北福祉大学兼任講師後藤一蔵氏から講演の研修会を開催した。

(2) 総合的現地教育訓練指導

各消防団等が開催した消防演習、消防出初式、特別点検及び各種訓練・行事等に会長等が出席し、消防団員並びに消防関係者を激励した。

(3) 消防救助技術岩手県大会への補助事業

〈平成30年6月29日(金) 岩手県消防学校〉

岩手県消防長会が消防職員の救助技術の訓練成果を披露するとともに、より高度な救助技術を取得することを目的に開催された「第42

回消防救助技術岩手県大会」の運営費の一部として10万円の補助金を交付した。

(参加チーム96チーム・選手248名)

5 日本消防協会が実施する事業等への協力、参加助成

消防殉職者慰霊祭、消防操法大会、消防団員の研修事業等に参加した経費の一部を助成するとともに、参加協力する。

(1) 第36回全国消防殉職者慰霊祭

〈平成30年9月13日(木) 日本消防会館ニッショーホール〉

全国の消防殉職者の御霊のご冥福を祈るために举行された全国消防殉職者慰霊祭に本県からご遺族5名と大森協会長が参列された。

(2) 第26回全国消防操法大会

〈平成30年10月19日(金) 富山市・富山県広域消防防災センター〉

岩手県代表として、北上市消防団隊が出場し健闘した。

(3) 第45回消防団幹部特別研修

〈平成31年1月15日(火)～18日(金) 日本消防協会〉

花巻市消防団 鎌田幸也副団長が出席した。

(4) 第18回消防団幹部候補中央特別研修

将来の消防団幹部を育成することを目的に開催された本研修会に、男性消防団員3名、女性消防団員2名が参加した。

ア 男性消防団員の部

〈平成31年1月30日(水)～2月1日(金) 参加、八幡平市消防団3名〉

イ 女性消防団員の部

〈平成31年2月13日(水)～2月15日(金)・参加、久慈市消防団1名、野田村消防団1名〉

(5) 第71回日本消防協会定例表彰

〈平成31年3月5日(火)・日本消防会館ニッショーホール〉

ア 特別功労章 1名

岩手県消防協会副会長・宮古市消防団長 山下修治

イ 優良消防団「表彰旗」 1団 金ヶ崎町消防団

ウ 優良消防団「竿頭綬」 3団 二戸市消防団、葛巻町消防団、
普代村消防団

エ 「功績章」 23名

オ 「精績章」 56名

カ 「勤続章」 255名

キ 優良婦人消防隊員「功績章」 1名

八幡平市婦人消防協力隊松尾地区隊 隊長 田村百十子

(6) 女性消防団員研修事業

〈平成30年11月8日(木)～10日(土) 大津市・滋賀県立体育館〉

女性消防団員の育成と消防団活性化に資するとともに、地域住民に対し防火意識の高揚を図ることを目的として開催された「第24回全国女性消防団員活性化滋賀大会」に本県から6市町の女性消防団員等16名が参加した。

(7) 消防団員指導員研修事業

〈平成30年11月30日(金)～12月1日(土) 岩手県消防学校〉

地域防災の中核としての役割を果たす消防団員の任務の重要性に鑑み、これら消防団幹部としての防災技術の向上を図るために、日本消防協会が都道府県単位に実施する「平成30年度消防団員指導員研修」を岩手県消防学校の幹部教育指揮幹部科分団指揮課程と併せて共催で実施した。(21消防団、42名)

○ 公益目的事業2

1 岩手県立総合防災センターの運営管理受託業務

岩手県の委託を受けて、県民に対する防災思想の普及啓発を図ることを目的として、地震や暗闇、煙の疑似体験、各種展示設備、モニター映像等により防火防災知識を取得するとともに、模擬消火や応急手当の実演なども体験できる総合防災センターの運営管理等の委託業務を実施した。(来館者数11,346人、内訳:団体(199団体)5,585人、個人5,761人)

○ 収益事業

1 消防団員等福祉共済事業

消防職・団員が死亡又は障害を受けた場合に、その家族の生活を守るとともに、消防団員等の福祉の増進を図ることを目的とした福祉共済制度に33消防団、1消防本部が加入した。

2 婦人消防隊員福祉共済事業

協同互助による共済制度への加入を推進し、婦人消防隊員、婦人防火クラブ員の活動の活性化と福祉の向上を一層進めることを趣旨とした婦人消防隊員福祉共済制度に29団体が加入した。

3 生活協同組合全日本消防人共済会関係(消防団員火災共済事業)

全国の消防職・団員の福利厚生を図るために、協同互助の精神に基づく共済制度を確立し、組合員の不慮の災害を保障するとともに、その生活の文化的、経済的改善向上を期することを目的とした火災共済に30消防団、1消防本部が加入した。

4 消防個人年金事業

消防職・団員の老後の生活の安定と福祉の向上に資するための消防個人年金制度の説明会を開催し、制度の周知を図った。

5 斡旋事業

日本消防協会が実施している消防団手帳、消防職・団員幹部職章や記念事業等で販売する記念Tシャツ等について、岩手県分の斡旋及び取りまとめの業務等に協力した。

○ その他の事業1（相互扶助等事業）

1 岩手県危険物安全協会連合会の事務受託

危険物の取扱い技術の向上及び施設の改善、危険物に起因する災害の防止に努めることをもって、社会公共の福祉の増進に寄与することを目的に組織されている岩手県危険物安全協会連合会の事務を受託し、同連合会の全般にわたる事務を行った。

○ その他の事業2（相互扶助等事業）

1 初任消防団員教育訓練事業

岩手県より委託を受け、初任消防団員の資質の向上と消防体制の強化を図ることを目的として消防団員として必要な消防に関する教育訓練を地区支部等单位に実施した。

（訓練参加人員：初任消防団員教育 1, 200人）

2 健康増進事業

日本消防協会から「健康増進事業」として受託し、簡易拡声器132個を3か年計画の初年度で11消防団に配布した。

3 岩手県消防協会設立100周年記念誌発行事業

継続事業としていた記念誌については、発行を完了し、関係者に配布するとともに、各消防団及び消防本部に斡旋して全ての事業が完了した。

○ 法人関係

1 会議関係

本会運営のために諸会議を開催するほか、関係機関の開催する会議に関係者が出席した。

(1) 岩手県消防協会各種会議

ア 会長・副会長・業務執行理事会議 4回

イ 理事会 5回

ウ 評議員会 1回

エ 監査会 1回

オ 評議員選定委員会 1回

カ 表彰審査委員会 3回

キ 地区支部連絡会議 1回

ク 消防長、消防団長及び消防担当課長会議 1回

(2) 平成30年度東北地区消防連絡協議会

〈平成30年7月19日(木) 新潟市・ANAクラウンプラザホテル〉

東北地区の消防関係者の連絡を密にするとともに、当面する消防防災上の諸課題について研究協議を行い、消防の資質向上や地域防災の活性化に努めた。

(3) 平成30年度東北地区消防協会事務局会議

〈平成30年12月20日(木) 山形市・山形グランドホテル〉

東北地区の消防協会事務局関係者の情報交換や諸課題についての研究討議を行い、知識の修得や資質の向上に努めた。

2 協力事務

(1) 公益財団法人 日本消防協会関係

日本消防協会の副会長として協会長が、評議員として協会副会長が会議等に出席した。

(2) 公益財団法人 消防育英会関係

殉職された消防職・団員の遺児が発生した場合に、消防育英会の奨学生として奨学金が交付されて学業に励めるよう消防育英会の事務に協力した。

(岩手県内の平成30年度の奨学生 50名)